

次期「長崎県観光振興基本計画」（素案）に対する パブリックコメントの募集結果について

次期「長崎県観光振興基本計画」（素案）についてパブリックコメントを実施しましたところ、貴重なご意見をいただき厚くお礼申し上げます。
いただいたご意見に対する県の考え方を取りまとめましたので公表します。

1．募集期間

令和2年12月11日（金）～令和3年1月8日（金）

2．募集方法

電子申請、郵送、ファクシミリ

3．閲覧方法

- ・ 県ホームページに掲載
- ・ 県観光振興課、県政情報コーナー（県庁県民センター内）
- ・ 各振興局行政資料コーナー（長崎振興局を除く）

4．意見の件数

1件（1名）

5．意見の反映状況

対応区分	対応内容	件数
A	・ 素案に修正を加え、反映させたもの	
B	・ 素案にすでに盛り込まれているもの ・ 素案の考え方や姿勢に合致し、今後、実施・遂行の中で反映させていくもの	1
C	・ 今後検討していくもの	
D	・ 反映することが困難なもの	
E	・ その他	
計		1

6. 提出された意見の要旨及び県の考え方

番号	区分	意見要旨	県の考え方
1	B	<p>素案の中に『韓国の訪日客減少』や『中国大型クルーザー』による客足の減少などが表記されたが、従来の韓国・中国の訪日客を狙うだけの施策ではなく東南アジアなどの他の国に対してのアピールが必要なのではないかと思う。</p> <p>とはいえ、幅広く狙うのではなくステップバイステップでターゲット国を絞り発信することが重要かと思う。</p> <p>富裕層に関しても近年の東南アジアの富裕層は中国の富裕層に負けず劣らずの層が増加しているなか上記の『従来の韓国・中国に依存するアピール施策』を『新規顧客開拓のためターゲット国を選定』していく形が中長期的にも大事なのかなと思う。</p> <p>例であげますと、タイのセレブリティはカンボジア・ラオスでも人気がある。</p> <p>なのでタイのセレブリティが発信することは近隣の国にも影響がある。（とはいえカンボジア・ラオスはまだまだ開発国なので多くの観光客は望めないが）</p>	<p>インバウンドについては、これまでも重点市場である東アジアのほか、訪日市場が拡大している東南アジアや欧米豪をターゲットに取り組んできたところですが、令和元年の韓国の訪日控えなど、特定の国や地域に依存した誘客はリスクを伴うことから、各地域とも連携しながら誘客の多角化についても引き続き取り組むこととしております。</p> <p>なお、東南アジアについては、世界遺産や歴史的なゆかりなど本県の強みを活かして、フィリピンやベトナム等からの誘客に取り組むとともに、タイについても県公式SNSでの情報発信や現地観光展への出展やチャーター便の誘致など、これまでも観光地としての認知度向上や誘客に取り組んできたところであり、次期計画においても引き続き取り組みを強化することとしております。</p>